Vol.10　成人式に思ったこと　～コミュニティーサービスの大切さ～　（平成15年1月25日）

今年の成人式はあまり荒れることなく平穏に行なわれたと報道されました。戦前は村や町内には強面の小父さんがいたり、面倒見のよい小母さんがいて、他人の子も自分の子も境無く叱ったり、なだめたり、時には諭して、村や町内ぐるみで子供達を育ててきました。

そうして育てられた子供達は、やがて大きくなった時、その村や町内が心の故郷となって、人々はその故郷を愛し、懐かしく誇りを持っていました。苦しい事や、辛い事に出会うといつも故郷を思い出して努力し、頑張って生きてきたと教えられる事があります。ふと、今の若者達の心にそんな故郷があるだろうかと考えることがあります。

安房郡丸山町は、毎年夏の盆帰省時には学校を開放して古い写真、作文集、様々な懐かしいものを展示して村へと迎え入れると言われています。いわば学校上げての同窓会であり、校庭では縁日の店がいっぱい並ぶ盛況さだと聞いております。成人式も学校、学区ごとにこのように地域の人達が祝ってあげれば、なつかしく、嬉しいものになるのではと思いました。

大型店、チェーン店に地元商店は追われ、町の伝統歴史、景観風物詩まで変化してしまいました。
残念なことであります。住みよい町とはセイフティ（安全）、アメニティ（快適な環境）そしてコミュニティ（親睦）の３つの条件があります。

今、私達の周囲では、「不況だから大型店が安売りする」、「モノが売れない」とよく聞かれます。私達は、大量の品揃え、安価な品に目を奪われて、商いの本筋であるコミュニケーション、サービスを忘れている店があまりにも多いことに気が付きます。大型店に競争して、合理化すれば従来のお客様は必ず不便になります。高齢化、忙しいお客様が多くなるから街の商店は必要な筈です。もっと情報や、時には裏話も提供したらそれぞれの家の米、調味料や、好み、旬なモノのニュースを伝えたり、御用聞きして届ける・・・これが町内で必要な店だったのです。不況ではなく、街の商いが怠惰になったせいではないでしょうか。